

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

published by



岐阜大学

岐大の いぶき

2013
Spring-Summer No. 25

【特集1】

主体的な自然体験
『森のようちえん』で
新しい保育の在り方を研究

【特集2】

「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」
地域との連携の中で、
学生の挑戦を後押し!





教育学部の金武李佳さんが アメリカで開かれた「模擬国連」で モロッコ大使として議論・交渉！

岐阜大学 教育学部
生涯教育課程4年
金武 李佳 さん

平成 25 年 3 月 26 日 (火)～29 日 (金)



上／会議後に開催されたパーティーには、浴衣姿で参加。「会議と違って緊張も解け、互いの国のことや勉強の仕方など、話が弾みました」。
下／動議や発議を意味する「Motion! (モーション)」と言って挙手すると、議長から10分間の発言が許可されます。

ニューヨークで開催された「New York Global Young Leaders Summit International Model United Nations 2013 (通称：模擬国連)」に、教育学部の金武李佳さんが参加しました。

国際問題への理解や交渉術の深化を図ることを目的とする模擬国連。世界各国から学生約500人が集まりました。全員がある国の大使の役割を演じ、担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて、実際の会議と同様、特定の議題について議論・交渉します。モロッコ大使役に任命された金武さんは、「開発資金の運用」「エイズと貧困の関係」「情報コミュニケーション技術の活用」の3つの議題に対して、モロッコ王国としての声明文をまとめ、会議に挑みました。

「昨年の12月から英語やモロッコ経済の勉強、声明文の準備を始めました。

現在の政府の見解を知るために、同じモロッコ大使役の九州大学大学院の学生と、東京のモロッコ大使館を訪問。外交官の方と直接お会いするとお話が心に入ってきて、政府が強く推している取り組みが分かりました」と金武さん。こうした経験から声明文には、若者が仕事に就けるよう、教育のインフラ整備を行うことを盛り込みました。

「出発前日は正直不安でしかなかったんですが、絶対にがんばろうと思いました。会議はすごくスピードが早かったのですが、分からないことがあったら割って入って『どういう意味ですか?』と聞き、その上で自分の意見を伝えるよう努力しました。世界各国の人々と知り合うことで“日本とそのほかの国”という見方が、“ほかの国の中に日本がある”という捉え方になりましたね」。

8月からは交換留学生として米国サンディエゴ州立大学で心理学を学び、臨床心理士を目指します。「数年は外国で働きたいです。日本では気がつかない何かを発見できると思うから」。新たな将来像を見据えた金武さんは、「世界の友人と話ができてとても幸せでした!」と満面の笑顔で振り返っていました。

保育園児がハロウィンの仮装で 学長を訪問

平成 24 年 10 月 31 日 (水)

ハロウィン当日、直営保育園「ほほえみ」のつばめ組(2歳児)・はくちょう組(3・4・5歳児)の27人が仮装をして学長室を訪れました。カボチャのマントや黒猫の耳などを身に付けた園児は「トリック・オア・トリート(Trick or Treat?)」と元気よく入室。出迎えた森学長と林副学長、八嶋理事、吉村理事がお菓子を配ると、園児たちは手作りのお菓子箱をいっぱいにさせて満面の笑顔。和やかなひと時となりました。



第64回 岐大祭を開催 テーマは「ブレイク」

平成 24 年 11 月 1 日 (木)～4 日 (日)

「岐大祭」は学生の正課研究、学術文化活動及び課外活動の祭典です。年間を通した取り組みの成果を学内外に発表し、より発展させる機会として、毎年、学生が自主的に企画・運営しています。今年のテーマは「ブレイク」。「憩いの場になってほしい、日常から踏み出してほしい」という願いが込められています。当日はみこしまつりやコスプレコンテスト、お笑いライブ、スポーツ大会などが開かれ、盛況のうちに終了しました。



03-05 Topics 岐阜大学のとりくみ Oct.2012→Apr.2013

06-09 【特集1】 主体的な自然体験『森のようちえん』で 新しい保育の在り方を研究

教育学部 家政教育講座 保育学研究室
今村 光章 准教授

10-13 【特集2】 「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」 地域との連携の中で、学生の挑戦を後押し！

工学部 社会基盤工学科
社会資本アセットマネジメント技術研究センター長
高木 朗義 教授

14-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。 ピンポイントの気象予報研究が次世代エネルギーの未来を拓く

大学院工学研究科 環境エネルギーシステム専攻
自然エネルギー研究室
小林 智尚 教授

16-17 ひらけ！授業の扉 稲を育て、米を食し、「日本の稲作文化」を体験から学ぶ授業。

応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
大場 伸也 教授

応用生物科学部 作物栽培学研究室
松井 勤 教授

応用生物科学部 応用生命科学課程 食品加工学研究室
後藤 清和 教授

応用生物科学部 生物環境科学課程 多様性保全学研究室
宮川 修一 教授

18-19 就職の最前線へ 岐阜大学キャリアセンター「先輩社会人アドバイス事業」 20代後半の先輩社会人が「働くとは?」を学生に伝授！

20-21 いまを駆ける! 岐大生FACE Interview PHANTOMS 前主将 岩佐 純平 さん

22 お知らせ

23 岐阜大学基金の状況報告

巻末 公開講座のご案内

「森のようちえん」では、「大人はできるだけ口を出さず、子供が自分で気づくまで見守る」というルールがあるようです(本誌より)。森の中で、子供たちが五感をフルに発揮して遊んでいる姿を想像してみましょう。私たち大人が忘れてしまった、または経験したことのない森と人との交流が期待できそうです。そんな中で五感を研ぎ澄ませれば、きっと予想外で、素敵な第六感が育まれることでしょう。イギリスの哲学者ウィリアム・アーサー・ワードの言葉に、「普通の先生は説明をする。ちょっとできる先生は手本を見せる。優れた先生は生徒の心に火をつける。」とあります。子供たちだけでなく、大学生の心に火をつける教育が大切です。

(編集長)



PLACE ながら川ふれあいの森
MODEL 岐阜大学教育学部
家政教育講座 保育学研究室
今村 光章 准教授

平成25年度 入学式を行いました

平成25年4月7日(日)

長良川国際会議場において平成25年度入学式を行い、学部学生1,319人、大学院学生562人が入学しました。森学長は学部入学生には「立派な社会人になるべく、勉学に励んでください」と言葉を贈り、大学院入学生には「他者からの研究評価を恐れずに自分を信じて研究を進めてください」と激励しました。学部入学生代表の伊藤華奈子さんは「国際社会の一員としてたくましく生きる力を育みたい」と語り、大学院入学生代表の砂場昭吾さんは「真理を探究し、見識を高めたい」と宣誓しました。



平成24年度 学位記授与式を行いました

平成25年3月25日(月)

長良川国際会議場において平成24年度学位記授与式を行い、学部学生1,281人、大学院学生538人が卒業・修了しました。森学長は「日本の未来は皆さん方の活躍にかかっています。厳しい状況においても希望を捨てず、生き抜くたくましさを持ってください」と言葉を贈りました。卒業生代表の教育学部の山形明里さんと修了生代表の連合創薬医療情報研究科の浜田奈々子さんはそれぞれ「子どもたちの心に寄り添う教師を目指したい」「逆境に屈せず、未来を切り開いていきたい」と力強く決意を語りました。



大学構内でイルミネーションが輝く

平成24年12月6日(木)～25日(火)

昨年12月、岐阜大学の正面から丸池へと続く並木道が幻想的な青い光に彩られました。このイルミネーションは、サークル「イルミネーション実行委員会」が、「地域の方に岐阜大学を知ってもらいたい」という思いから企画。資金集めから実行までを、各学部自治会の学生や教職員などに協力と呼びかけ、実現しました。また、大学入試センター試験日や前後期日程入学試験日にも点灯し、受験生を応援しました。



応用生物科学部と岐阜県健康福祉部生活衛生課が連携協力に関する覚書を締結

平成25年2月28日(木)

応用生物科学部において「岐阜大学応用生物科学部と岐阜県健康福祉部生活衛生課との連携協力に関する覚書」の締結式が挙行されました。応用生物科学部の金丸義敬学部長、岐阜県健康福祉部生活衛生課の樋口行但課長のほか総勢7人が出席。この締結は狂犬病の診断など、獣医公衆衛生学分野で両者が有する知的、人的、物的資源について連携協力することが目的です。公衆衛生学分野全体としての覚書締結は、獣医系大学のある都道府県では初の取り組みです。



「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」総括シンポジウムを開催

平成24年12月5日(水)

「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」総括シンポジウム「男女共同参画大学の実現に向けて～女性研究者支援事業から男女共同参画推進活動へ」を開催し、学内外から約150人が参加しました。基調講演では三重大学人文学部特任教授で前女性研究者支援室長(学長補佐)の小川眞里子氏が「女性研究者の現状：世界・日本・三重」と題して講演。また、男女共同参画推進室の三宅恵子特任准教授、松藤淑美特任助教、松井真一特任助教が、2年半にわたる事業の取り組み成果の報告などを行いました。



第34・35回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成24年11月15日(木)・12月7日(金)

岐阜大学では一流の研究者の講演会を定期開催しています。11月15日(木)の第34回では、哲学者でNPO法人森づくりフォーラム代表理事の内山節氏が、人間と自然の関係や東日本大震災における津波や原発事故の災禍について講演。12月7日(金)の第35回では、東京大学大学院理学系研究科教授の早野龍五氏が、放射線に関する情報発信や内部被ばく、外部被ばくの調査を通して見えてきた原発事故の影響について語られました。



応援奨学生決定通知書交付式を実施

平成25年4月8日(月)

岐阜大学基金事業の一環で、応援奨学生制度を実施しています。この度、平成25年度の奨学生19人が決定し、決定通知書交付式が行われました。森学長から決定通知書が交付されると、工学部の清水大輔さんは「奨学金を有効に活用し、勉学や研究に励みます」と抱負を述べました。この制度は、人物及び学業成績において優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給し、優れた人材を育成するものです。



岐阜大学みず再生技術研究推進センターを開所

平成25年4月9日(火)

財団法人岐阜県環境管理技術センターと連携し、「岐阜大学みず再生技術研究推進センター」を開所しました。センターの目的は、浄化槽などの分散型污水处理施設の機能向上や、それらの放流先水路及び受容水域の水質向上につながる調査研究の推進です。森学長は開所式で「環境科学において社会貢献していきたい」と挨拶しました。



環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証範囲が拡大

平成24年12月18日(火)

岐阜大学は平成21年11月に環境ユニバーシティを宣言し、環境に配慮した大学運営を行っています。これまでに大学本部、図書館、教育学部、附属小・中学校、地域科学部が、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。更新審査・拡大審査を受け、平成24年12月18日(火)には新たに医学系研究科・医学部、応用生物科学部が認証を取得し、平成25年1月29日(火)に審査登録証の授与式が行われました。



第11回 岐阜大学学生企業展を開催

平成24年12月8日(土)・9日(日)

有志の学生が企画・運営する、今年で11回目となる「学生企業展」が開催されました。2日間でおおよそ1,200人の学生が来場し、参加企業194社の中から目当てのブースを訪問しました。近年の不況によって学生の就職活動、企業の採用活動は依然として厳しくなっています。そのような中で学生たちの就職意識は高く、企業ブースでは開場から終了時刻まで真剣に説明を受ける姿が多く見受けられました。



主体的な自然体験『森のようちえん』で 新しい保育の在り方を研究



上／大人はできるだけ口を出さず、子どもが自分で気づくまで見守ります。「教えると感動がないですから」と今村准教授。中／小川で子どもと遊ぶ学生。「森には会話と遊びのきっかけがたくさんあります」と話します。下／学生たちも一緒に子どもたち熱演の“お笑い”を楽しみます。

深い遊びの体験ができる森は 最高の保育現場です。

『森のようちえん』とは

スウェーデンやデンマーク、ドイツで生まれた保育活動で、年間を通して定期的に同じ森へ出かけ、子どもの自主性に任せて自由な遊びを楽しむ活動です。活動を続けると、子どもたちは四季折々の自然の変化やリズムを知ることができます。また、五感を働かせて自然の動きを感じ取り、友だちや動植物、光、風と一体になって遊ぶうちに、誰かと共に生きる力を身に付けていきます。

運営形式は3タイプ。保護者を含む自主的なグループが通年で運営する「通年型」。幼稚園や認可型保育所で園外活動の一部として取り入れる「融合型」。そして、自然学校や任意団体が行事で実践する「行事型」。私は「行事型」の『ぎふ☆森のようちえん』を主催し、毎月1回、子どもを森に集めて活動しています。

岐阜大学教育学部
家政教育講座 保育学研究室
今村 光章 准教授

私は、幼少期にはある程度の自然体験が必要だと思っています。元々、環境教育によって環境問題を解決し、持続可能な社会を作ろうという、青くさい研究者意識から環境教育研究と幼児教育学研究を始めましたが、例えば、「酸性雨や温暖化でこんな影響が出ますよ」と学校で教えるだけでは、子どもたちの行動は変わりません。しかし、実際に森へ何回も行くうちに、その場所が自分にとって大事なものだということがわかってきて、守ろうという気になります。私自身、幼少期を奈良県吉野町の山奥で過ごし、大学大学院時代には障がい児の子どもをキャンプやスキーに連れていくボランティアをしていました。この経験が、現在の『森のようちえん』活動につながっているのだと実感しています。

**森は教育現場でもあり、
教育者養成の場でもある。**

『森のようちえん』の最大の特徴は、子どもたちがやりたいと思ったことをやらせる、こと。無我夢中で遊んでいると、遊びに集中するあまり周りの状況が見えなくなります。このと

森で“遊びこむ”子どもたち

①五感をフル活動させ、 感受性が豊かになる

雨、風、動植物などの自然の営みを目で見て触って、音を聞き、匂いを嗅いで全身で感じとる

②本当の危険を見極める力がつく

小さなケガや失敗を体験することで、本当の危険を察知する力がつく

③自発的創造性を発揮する

森で圧倒的な多様性を持つ事物に出会い、自発的に創造力と想像力を駆使して遊ぶ

④相手を思いやる心が芽生える

遊びの時空が充実しているため、仲間集団とのコミュニケーション力や社会性、協調性が向上する

⑤自己肯定感につながる

「あなたはあなたのままでいい」という親の意識が伝わり、親子の信頼関係も強まる

き、子どもは、あちら側の世界へ行っている。そして、我に返って、こちら側の世界に帰ってきます。こうした、世界と二つになる、溶解体験は、遊びこむなかで実感できるのです。溶解体験が持つ意味は、ふと我に返って、他者や世界とつながっているんだ、という意識感覚を持つことにあります。ひとりでする力を身につけるだけでなく、共に生きる力の基盤の感覚を持つようになるのです。また、園庭や教室のような制限がない

く、遊びの可能性が開かれた自然環境は、子どもの自主性を育み、多様性への気づきをもたらします。そこでは教育者の意図や計画は通じず、偶然が頻繁に起こります。人間は自然をコントロールできないこと、大人が子どもをコントロールしたくてもどうにもならないことがあること、あちら側の世界があることを、気づかせてくれます。こうした意味で森は最高の教育現場であり、最高の教育者養成の現場なのです。

『森のようちえん』の 3形式に対する 今村准教授の考察

行事型

専用の園舎やフィールドを特定せず、行事として幼児対象の環境教育活動を行います。

【特徴】
幼児教育の中で重要視される静と動のバランスがうまくとれますが、1カ月に1回程度のため、子ども同士や、先生と子どもとの人間関係の構築に時間がかかります。

【実施例】
ぎふ☆森のようちえん
(代表：今村光章准教授 園児：170名)

通年型

台風や雷雨などの荒天以外、ほぼ毎日、森の中で保育を行います。ドイツやデンマークでは一般的な形態です。

【特徴】
異年齢集団の中で過ごすため人間関係が濃くなります。たくましくなり、いやなことにもめげない忍耐力がつきます。常に森の中で活動するので、保育の内容に偏りが生じる可能性もあります。

【実施例】
森の妖精ようちえん
(園長：ハラルト・フォン・フラクシュタイン氏
アドバイザー：アレクサンドラ・フォン・フラクシュタイン准教授／今村光章准教授 園児：15名)



「子どもたちの“やってみたい”気持ちを大事にしたい」と、フラクシュタイン准教授。

融合型

幼稚園や認可型保育所において、園外活動の一部として活動します。年に10回から月に数回程度、森へ出かけます。

【特徴】
いつも一緒にいる先生や仲間と森へ出かけるので安心して楽しめますが、一方で、幼稚園での関係が出たり、先生の指導性が高くなる場合があります。

【実施例】
ながら幼稚園
(アドバイザー：今村光章准教授 園児：230名)

※実施例はすべて「ながら川ふれあいの森」で活動しています



子どもたちを支える 仕事に就きたい

教育学部 家政教育講座4年
福田 いつか さん

『森のようちえん』には以前から興味を持っていたので、今村先生のゼミに決定して行けることになり、うれしく思いました。私は子どもの頃、アメリカに住んでいたのですが、危ないからと言われ、外に出してもらえませんでした。ですから幼少期の自然体験があまりなくて、今、子どもたちと遊びながら、花の蜜を吸ったり、木登りなどを体験しています。子どもたちと一緒にいると、与えられたもので育っていくのではなく、五感をフルに活用させて、自分から掴みとっていく芯みtainなものを感じます。自分に子どもができたときは、『森のようちえん』に入れて自然体験をさせたいですね。私は人見知りなので、今は教師になることは考えていませんが、教具を作るなど、子どもたちを支える仕事に就きたいという思いはあります。



『ぎふ☆森のようちえん』に ボランティア参加する学生たち

遊びながら子どもとの 関わり方が学べます

教育学部 美術教育講座3年
安藤 彰太 さん

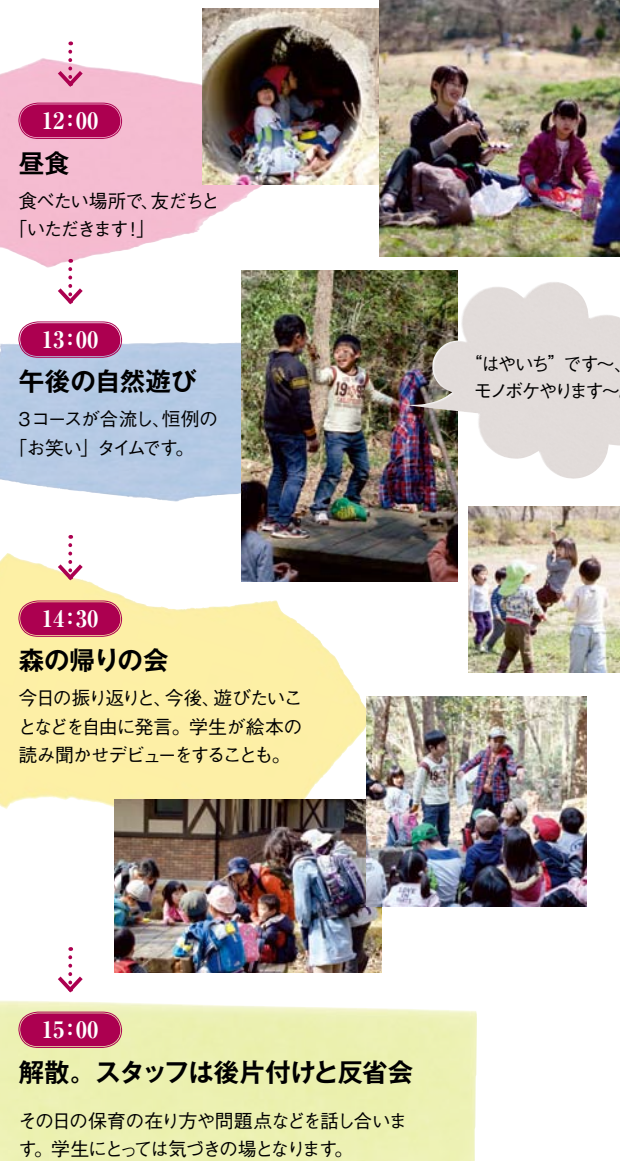


ボランティアを始めたのは1年生の4月からです。私の志望は中学校教員ですが、教育学部は幼稚園の教諭の免許も取れるという話を聞いて、一緒に取っておこうと思いました。そして、今村先生の保育学の授業で『森のようちえん』のことを知り、自分がどれだけ子どもたちと対峙できるかを試してみたいという気持ちで行きました。初回は子どもの動きがつかめず、けっこう大変でしたが、今は担当する子どもたちの名前を必ず覚えるようにしています。名前を覚えていると、子どもたちが自分を見てくれていると感じて安心すると思うので。大学では授業の教え方などは学びますが、子どもとの関わり方は学べません。先生と子どもとの信頼関係はとても大事だと思っているので、そういった関わり方を学べるのが一番大きいですね。

『森のようちえん』は幼稚園児だけで始めましたが、卒園後も来たいという子どものために、小学生クラスを始めました。小学校の教員を目指す学生は、教育実習で小学生と触れ合う機会がありますが、子どもを野外で遊ばせる時間はないので、いい経験になっています。また、幼稚園の教員を目指す学生は全員、「幼児教育課程論」の授業の一環として『森のようちえん』に連れて行きます。中にはその後もボランティアとして参加する学生もいます。ボランティアを続けるうちに、幼児に対する見当がついてきます。例えば、年少だったら体の大き

さはこのくらい、年中だったらこの程度のがわかる、などです。また、自分が幼児教育に向いているのかも自覚できます。教育実習から帰ってきた学生が、本当に小学校、中学校の教員になるかならないかを決めるように、何回か足を運ぶうちに将来のことが現実的に見えてきます。意欲的な学生には、絵本の読み聞かせや、慣れてきたら指導者として子どもたちを引っ張っていく役を任せるなど、さまざまな機会も提供していきます。

私は自然とのつき合い方を、自然の中で学んでいけることを願っています。『森のようちえん』を通して、幼児期の自然体験が増えるような働きかけができればと思っています。



教員に向いているかどうか、
学生の進路選択の一環として。

さはこのくらい、年中だったらこの程度のがわかる、などです。また、自分が幼児教育に向いているのかも自覚できます。教育実習から帰ってきた学生が、本当に小学校、中学校の教員になるかならないかを決めるように、何回か足を運ぶうちに将来のことが現実的に見えてきます。意欲的な学生には、絵本の読み聞かせや、慣れてきたら指導者として子どもたちを引っ張っていく役を任せるなど、さまざまな機会も提供していきます。

ぎふ☆森のようちえん 1日の流れ

9:00
スタッフによる現地の下見

9:45
森の朝の会

先生や友だちの名前を覚えます。「キャンプ場」「くもく広場」「山」コースから、行きたいコースを自由に選ばせ、子どもの意欲を引き出します。

10:00
森へ出発。自然遊び開始



ヒミツの基地づくりは
おもしろいよ～！

「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」 地域との連携の中で、 学生の挑戦を後押し！

「大学×地域の重層的なチャレンジ支援」とは

地域の経営者による「講義」や多彩な「ボランティア」、地場産業における「実践型インターンシップ」と、異なる形態のプログラムを互いにつながりを持たせて組み立てた教育スタイル。学生はどのプログラムからでも参加できる。学生の教育と地域への貢献を実現。

- 『地域協働型インターン』と『地域活性化システム論』は全学共通教育科目として単位取得が可能
- NPO法人G-netと連携した取り組み
- インターンでは、マーケティングリサーチや広報活動などの実践型プロジェクトに挑戦
- 経験を学びに落とし込むために定期的な振り返りの場「フォローアップ研修会」を開催
- 経営者によるセミナーや社会人基礎スキル研修、コーチングなどの個別サポートも実施

Challenge 01

講義

経営者の想いを聞き、グループワークに取り組む 『地域活性化システム論 ～まちづくりリーダー養成講座～』

企業やNPO団体の代表者など地域で挑戦を続ける大人と出会い、必要なスキルや心構えを身につけます。

【講義例】

「地域活性におけるソーシャルビジネス」（講師：G-net代表理事 秋元祥治氏）
「『ねこの約束』を通じたまちづくり」（講師：いぶき福祉施設長 北川雄史氏）
「グループ演習：地域資源を探そう」（講師：パブリックハーツ代表取締役 水谷香織氏）



1年生春に受講

G-netの秋元さんの講義で、アメリカの学生が生物学の知識を利用して地域おこしをした話を聞きました。「自分が学ぶ工学でも同じことを」と思い、地元長野県を工業でおこすために勉強に励んでいます。

工学部 機能材料工学科2年
林 兼輔 さん

岐阜大学工学部 社会基盤工学科
社会資本アセットマネジメント技術研究センター長
高木 朗義 教授

地域の中で働き、学ぶことで、学生は自分に気づき、生き方を探す。

高木 私は岐阜県と連携してまちづくり支援を行っています。その中で各地域の問題解決のためには学生時代からまちづくりリーダーを養成する必要があると感じ、全学共通教育科目の『地域活性化システム論』と『重層的なチャレンジ支援』の取り組みを始めたのです。『重層的なチャレンジ支援』とは地域と学生が交流する機会のバリエーションを増やした結果として生まれたもの。『地域活性化システム論』の講義で地域の経営者と出会い、数週間以上のインターンシップやボランティアに興味を持ってもらう。講義を受

大学と共に取り組む「NPO法人G-net」

岐阜市出身の秋元祥治さんが学生時代の2001年に地域活性化を目的に起業。2003年法人化。地域優良企業における学生の長期インターンシップを中心に、人材育成やまちづくり活動を行う。地域と学生をつなげている。

2年生春休みに
大橋量器にてインターン



工学部 生命工学科3年
塚原 彰仁 さん

初開催の「橋まつり」の運営リーダーとして、まつり全体の統括を行いました。企画や運営で多くの人と関わり、協力してもらうことの難しさや喜びを学びました。

Challenge 02

ボランティア

チャレンジの芽を育て、人間力を養う 『学生ボラネット』

正式名称：ぎふ学生ボランティア・地域活動ネットワーク構築事業

多彩なボランティアに参加し、地域の人々と活動することで、人間性・社会性の構築をめざします。

【ボランティア例】

災害救助の活動
無償学習塾のスタッフ
フェアトレードイベントの企画・運営
文化財の見守りや修繕、本の読み聞かせなど

1年生冬から「学生ボラネット」
の広報を担当



工学部 社会基盤工学科3年
川口 直秀 さん

講義やインターンで地域を良くしようと行動を起こしている大人を目にし、「自分が経験したものをもっと多くの学生に伝えたい」と『学生ボラネット』の立ち上げと運営に携わっています。

NPO法人G-net代表理事
岐阜大学非常勤講師
慶應義塾大学SFC研究所所員（訪問）

秋元 祥治 さん



Challenge 03

夏・春休み
インターンシップ

地域のさまざまな現場で貢献しながら学ぶ 『地域協働型インターン』

春夏の長期休暇を利用した実践型プログラム。マーケティングやまちづくりの企画運営等に取り組みます。

【インターンシップ例】

地域密着型の高級スーパーでの販路開拓の可能性をリサーチ（山川醸造）
着地型観光プログラムの広報（長良川おんぱく事務局）
郡上明宝地区のトマト農家リサーチ（ななしんぼ）

Challenge 04

半年
インターンシップ

経営者と師弟関係を築き、目標に取り組む 『ホンキ系インターンシップ』

半年から1年間の長期インターンシップで実践的な仕事を通して、主体的な思考や行動力を養います。

【インターンシップ例】

カフェ・催事販売などのマニュアル作成（ペーグル屋 エルクアトロギャッツ）
栢商品に関するイベントの企画・提案、運営（大橋量器）



教育学部 特別支援学校
教員養成課程3年
長瀬 慶子 さん

1年生2月～2年生9月(8カ月間)
に大橋量器にてインターン

栢作り体験のインストラクターや企画「栢酒列車」の提案・運営など多種多様な仕事を経験しました。社会で活躍する大人たちと出会うことで考えの幅が広がり、将来の方向性が明確になりました。

けなくとも、各取り組みに参加できるので、重層的と呼んでいます。

秋元 地方で数週間以上のインターンシップが活発なのは岐阜大学だけ。先生がこの取り組みを我々が行う理由は何でしょうか？

高木 一番には大学単体ではこうした取り組みが難しく、インターン生を送りつばなしという例も少なくないこと。現場で学生が困った時のフォローやサポートが大切です。インターンシップに対して専門的に取り組んでいるG-netとの連携は、地元企業と大学にとって多くの相乗効果が期待できます。

秋元 我々はまず、事前に企業と打ち合わせをし、企業が抱える問題点などをヒアリング。学生と協働するプロジェクトも提案するんです。学生がプロジェクトに本気で取り組むと会社の利益にもつながる。これがこの『地域協働型

ホンキ系はパートナー的な存在に、 地域協働型にはマーケティングを。

『地域協働型インターンシップ』で来た久世さんの場合は冬に向けての枡の材料確保の時期だったので、製材所のリサーチや訪問のアポ取りをお願いしました。最初は人見知りでしたが、最初は自分から積極的に動けるようになっていた。その成長には驚きましたね。

うちでは約5年前から『ホンキ系インターンシップ』を、3年前からは『地域協働型インターンシップ』も受け入れていますが、それぞれに学生の役割が違います。まずホンキ系は私のパートナー的な存在で動いてもらうことが多い。時には会社にとって学生が重要な存在になることもあります。地域協働型の場合は、実現してみたい企画のリサーチな

【有限会社大橋量器】



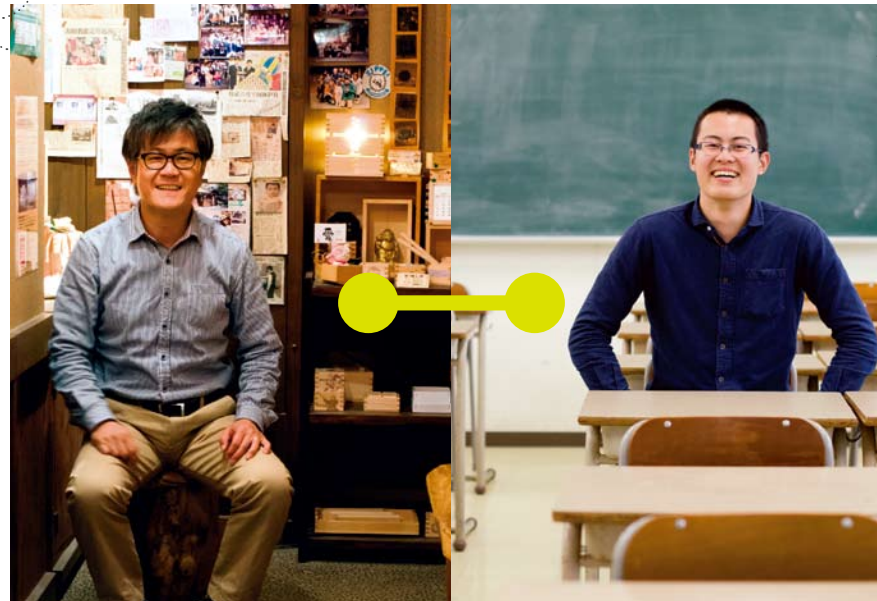
伝統的な「枡」の専門メーカーとして、大垣市で60年以上にわたり木製枡を製造販売。工場に隣接するアンテナショップでは焼き印を施したオリジナル枡など多彩な商品を販売。アメリカでも評判を呼ぶ。

どをお願いすることが多いです。

学生が実際に企業の一員として動くことで、自分に何ができるのか気づくことができます。また企業も学生に知ってもらえるきっかけとなります。学生が地元の企業や活動に興味を持つ、それが地域の活力につながると思いますね。お互いのいい起爆剤となれるよう今後も積極的に受け入れたいと考えています。

経営者と学生との点と点を結ぶ出会い

学生に教えられることも多いです



有限会社大橋量器
代表取締役
大橋 博行 さん

教育学部
数学教育講座2年
久世 英貴 さん

毎日、インターンに取り組むような気持ちで過ごしています！

結果を残したことが自信に。 内向的から積極的な自分に変化。

私が『地域協働型インターンシップ』に参加しようと思ったのは『長期インターンフェア』がきっかけです。先輩方がみな堂々と話す姿を見て「自分もこうなりたい」と思いました。私はインターンに行くまで、人見知りで内向的でした。最初に行った大橋量器では材料の仕入れ先を開拓する仕事を任せられたのですが、はじめは電話をするのも手が震え、1日1件かけるのがやっとでした。しかし一緒に入った他のインターン生たちの話を聞き、「自分は何も結果を残せていない」と実感。そこで事前に話の内容をまとめて電話をするということをして100件ほど繰り返すうちに自信がつき、結果として2社と正式な取引を進めることができ、大

久世さんのチャレンジ

長期インターンフェア等に参加

1年生夏
「地域協働型インターンシップ」(大橋量器)

1年生冬(1カ月間)
「みちのく復興インターン」(ETIC主催)

な達成感を味わいました。

この経験が自信につながり、その後も今年2月に東北の学習支援インターンシップにも参加。どんな状況でも明るく子どもたちと接して自分もさらに明るくなりました。

最近は何事も積極的に取り組めるようになり、学ぶことが楽しいです。今は教育学部の運動会も企画中。学科を越えてつながりたいですね。ぜひ実現したいと思っています。

受賞歴

「重層的なチャレンジ支援」

地域仕事づくりチャレンジ大賞2012 奨励賞受賞
(チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト主催)

社会人基礎力育成グランプリ2013中部地区予選大会 奨励賞受賞
(日本経済新聞社主催、経済産業省共催、文部科学省後援)

「地域活性化システム論」で学生が発案した「獣肉ジャーキープロジェクト」

第7回土木計画学公共政策デザインコンペ
土木計画学委員会賞・奨励賞受賞(土木学会主催)

	1年	2年	3年	4年	計
地域協働型	8人	3人	1人	1人	13人
ホンキ系	9人	14人	11人	0人	34人



若者を中心とした地域づくりの事例を評価する「地域仕事づくりチャレンジ大賞2012」。各地から約400団体の応募があり、12団体が本大会に参加。学生の川口さん(左)も大会に挑み、奨励賞を受賞。

岐阜大学と地域企業と、 より深い連携を目指します。

挑戦し続ける企業が 将来を担う学生を育てます。

インターンシップ」の特徴です。

地域と大学の連携といえば、これまでは研究が中心でしたよね。

高木 そうです。研究も大切ですが、地域の次世代を担う人材の育成も大切。未来の人材を育てるのは常に前進し続けている地域の企業だと思っています。学生が行きたくするような魅力ある企業は地域に多くありますから。

秋元 地域が若者を育てる、まさに新しい地域連携ですね。何よりこの取り組みは学生にとっての学びも多い。例えば6週間で大人100人と出会う機会があることは、それだけで学びになります。また社会に出てすぐに積極的に動くことは難しいですが、この経験があれば比較的スムーズにとけ込むことができます。そして仕事や勉強に対して価値観が変わり、自分に足りないものに気づくこともできます。

高木 その気づきのために随時行っているのがフォローアップ研修。自分たちが現場で行っていることはどんな意味を持つのかを考え、振り返ることはとても重要です。毎週の研修会では学生たちがグループワーク形式で話をしますが、人の話を聴くことや対話を通じて自分の経験が整理でき、振り返りもきちんとできます。

秋元 こうした実践型のプログラムの場合、目標設定と振り返りが教育効果を高めるために重要だと考えています。例えば失敗にどんな意味があるかを知ること、次のステップに進むいい経験です。振り返ることで学生の授業に取り組み姿勢も変わりますよね。

高木 より授業に対して能動的になり、学びが深くなりますね。今後学生が「地域協働型インターンシップをするのは当たり前」と思えるように、もっと活動の裾野を広げていきたいと考えています。

秋元 大学で学んだことを生かす専門性の高いインターンシップを考えてもいいですね。

高木 学生にはこの経験から、社会に出てからも挑戦し続ける大人になってもらいたい。またお祭りや行事など、その地域にいるからこそできることを見つけて取り組んでほしいと思っています。

秋元 どんな場合でも当事者意識を持って、主体的にコミットする姿勢を持ってほしいということですね。

高木 そのためにもこれから大学は地域が抱える課題を気軽に持ち込むことができ、学生と一緒に解決する場となるべきです。地域の人々と一緒に学びあう中で、自分の力を発揮し、生き方を見つけてもらいたい。「重層的なチャレンジ支援」に飛び込むのはそのいい機会です。

秋元 将来、自分が一番活躍できるところへ進むためにもぜひ挑戦してもらいたいですね。

Let's
Challenge!

インターンシップ への参加実績

ピンポイントの気象予報研究が 次世代エネルギーの未来を拓く

—— 全国で唯一、大学から「局地気象予報」を発信。

岐阜大学工学部には私を含む3人の気象予報士が所属しています。国内の大学では初となる気象予報業務許可を取得し、「局地気象予報システム」を使って愛知、岐阜の局地的な天気や気温、降水量、風向などを専用サイトで公開し、毎日更新しています。

この「局地気象予報システム」は、米ペンシルバニア州立大学と米国大気研究センターが開発した「局地気象モデルMM5」をベースとして、吉野純准教授が開発した超高解像・高精度気象モデルです。高性能なコンピュータを使い、流体力学方程式や熱力学方程式、放射方程式など多くの物理方程式を用いて風や雲などの大気の運動を計算。当日の午前9時から翌日午後9時までの1時間ごとの予報を、毎日午前9時に一回更新しています。

また、「局地気象予報システム」の予報結果から日射強度も予測。大学屋上で観測したデータと照合し、より正しい予報の研究も行っています。



岐阜大学大学院工学研究科 環境エネルギーシステム専攻
自然エネルギー研究室 小林 智尚 教授

「局地気象予報システム」をもとに
「太陽光発電見張りサイト」を開発。

天気予報は「今日は暖かい」とか「明日は雨だ」など、生活に必要な情報としてだけではなく、さまざまな使い方ができます。例えば、今日の日射量では太陽光の発電量はどのくらいか、また、風の強さがわかれば風力の発電量も予測できます。そこで、私たちは「局地気象予報システム」の予報結果を使って日射強度を計算し、それを太陽光発電の利用に役立てる方法を研究しています。

もともと私は海洋土木や海岸土木が専門。防波堤の高さを決めるために波の高さを計算していました。波は風によって起こるので、風を予測するために天気全体の研究をしていたところ、ある日、電気電子工学科の先生から、そこで算出された日射に関するデータが欲しいと依頼されました。岐阜大学は学科の垣根を越えた交流も多く、研究者にとって大変良い環境です。この依頼がきっかけで、研究が太陽光発電に関するもの

のへと広がったのです。

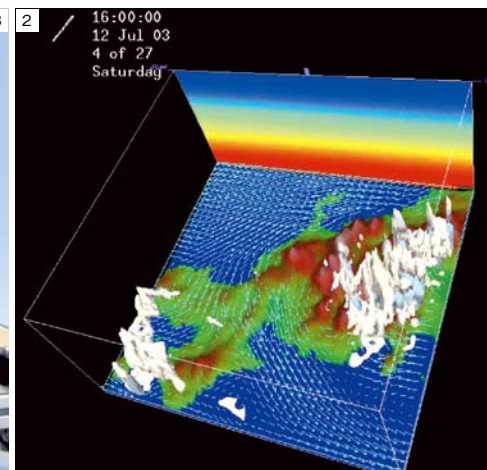
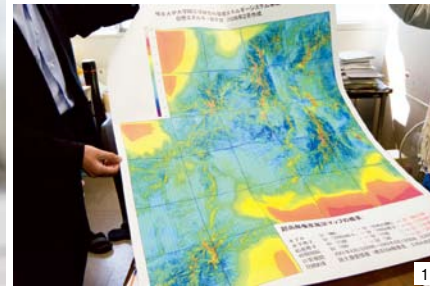
平成22年には、自然エネルギー導入に積極的な岐阜県可児郡御嵩町から「太陽光発電で期待できる発電量を調べてほしい」と声がかかりました。そこで、これまでの研究を応用して日射量の調査を行った結果、御嵩町は全国平均よりも多い発電量が期待できると判明しました。また、実際に町民が太陽光発電を導入するためのシステムを、との要望から「太陽光発電の年間発電量見張りサイト」も立ち上げました。

このサイトでは自分の家の太陽光パネルの形や方位などを入力することで年間の発電量が予測でき、電気料金などの目安を知ることができます。翌年には岐阜県、愛知県のサイトの運営も開始。現在は御嵩町の「みたけクリーンエネルギー推進協議会」に加わり、災害時に備えて公共施設にどの程度太陽光パネルをつけるかなどの検討を行っています。

気象予報で企業や社会と連携し
人の役に立つ仕組みを考える。

こうした「局地気象予報システム」を使って、企業とも連携を進めています。例えば建設関係では、湿気や雨で錆びる橋梁の塗り替え時期を予測します。中部電力とは毎日の太陽光の発電量を予測し、太陽光発電が多い日は、作る電気の量を抑えてCO₂を削減する取り組みを行っています。また、宇宙空間を利用した宇宙太陽光発電システムの開発にも携わり、地上にエネルギーを伝えるレーザーが大気を通過する際の雲の位置の研究を続けています。

自然エネルギーにはまだ不安定な要素がありますが、既存のエネルギーと連携して安定供給が行えればと考えています。そのためには研究するだけの工学ではなく、実際に人の役に立つ、社会貢献につながる仕組みを開発することが重要です。将来的には明日の発電量がわかる、太陽光発電の天気予報を行いたいとも思っています。



CHECK!

「岐阜大学が発信する
愛知県・岐阜県の局地気象予報」
<http://net.cive.gifu-u.ac.jp/>



「岐阜県・愛知県太陽光発電の
年間発電量を推定」
<http://energy-met.cive.gifu-u.ac.jp/pv-map/gifu-aichi.html>



1.風力発電機の設置場所を検討するために作られた「広域風況マップ」。2.「局地気象予報システム」をもとに、10km上空までの中部地方の気象場を解析している。3.太陽光の強さを計測する「スカイラジオメーター」は大学の屋上に設置されている。



講義で栽培方法を説明し、田での実習を裏付けます。
地球温暖化で稲が実らなくなる危険性も解説。

世界人口の約半分、35億人を支えている「米」。稲作は自然の法則にのっとったものであることを学ぶために、授業では土づくりから稲刈りまでの基本的な栽培方法や成長とともに変化する稲の形を解説。耕地面積、土地に含まれる窒素成分などの栄養、降り注ぐ太陽光線量により、収量は限られます。しかし現在、地球温暖化によって、稲が全く実らなくなる危険性が生まれています。科学的根拠に基づいて予測した収量の推移や、高温に対する耐性が籾の裂開の違いに関連していることなど、研究内容にも踏み込みながら、稲の現状と未来の姿を解説します。

応用生物科学部 作物栽培学研究室
松井 勤 教授

▶担当授業
イネの成長と栽培
地球温暖化とイネ



ひらけ！
授業の扉

稲を育て、米を食し、 日本の稲作文化を 体験から学ぶ授業。

全学共通教育科目「自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）」

全学部が集まる広大なキャンパスに、
東海・近畿地方で唯一、農場を有する岐阜大学。
恵まれた環境を生かし、
全学部が教養として学ぶ授業「全学共通教育科目」において、
学生たちは日本文化の基底でもある「米」に関して、
栽培実習と多角的な講義から学んでいます。
「米」を専門に研究する
応用生物科学部の4人の教授が授業を担当しています。

全学共通教育科目 自然科学実験講座 （ご飯までのフィールド科学）

Natural Science Experiment Course
対象学生：教育学部、地域科学部、医学部、工学部
定 員：40名
開講学期：前学期

広大な構内に農場を持ち、全学部がひとつのキャンパスに集まる、岐阜大学の持ち味を生かした講義。農業はかつての日本人にとって非常に身近なものであり、祭事とも深いつながりがありますが、近年では田植えを経験する機会も少なく、稲を目にすることも減ってきています。授業では構内にある水田などで実習を行い、種蒔きから田植え、雑草の駆除、ご飯の味の違いなどを、体験を通して学びます。農場で生きた自然に触れることで、植物の世界と食べ物のつながりを学生たちが実感することが目的です。一方、室内の講義では、水田の生態系や機能、稲の生物学と生育管理技術の関係、環境変動と食料生産の関係、米作りと地域経済の関係など、多方面から「米」を解説します。

学生にご飯の「官能試験」を体験してもらい、
品種で味と食感が異なることや、食品の重要性を伝えます。

日本にとっての「米」は、国民の生命を保障するのみならず、それを育む「水田」は国土、環境を支えており、国の根幹です。農業・農村の荒廃を許してはならないことを説明しています。日本の文化のひとつである米の生産技術は素晴らしく発達しており、その象徴のひとつとして「穀物乾燥貯蔵施設」の見学を行っています。若い学生は、米にはいくつかの品種があることを知ってはいますが、味や食感はほとんど変わらないと思っているようです。そこで、決められた統計の手順に従ってご飯の「官能試験」を行い、食品としての重要性を認識します。

応用生物科学部 応用生命科学課程 食品加工学研究室
後藤 清和 教授

▶担当授業
ご飯の科学
穀物共同乾燥施設の見学
ご飯の食味試験（農場）



世界の品種の多様性を伝え、
日本の財産の「米づくり」を再認識してもらいます。

「日本のコメと世界のコメ」では、最初に世界と日本のコメの生産量と消費量とを概観し、栽培植物としてのイネの起源や伝播経路、世界のさまざまな品種、水稻と陸稲、もちとうるち、赤米黒米、香り米などの解説を行います。岐阜県下にはかつて数千の品種があったのに、今ではコシヒカリ他数品種に収斂している一方で、多様な機能を持った品種が開発されていることを述べます。「世界各地の稲作」では、耕起や代掻き、田植えや直まき、稲刈り、脱穀や粳すりの方法について、東南アジアを中心にアフリカなどの画像や動画を交えて多様性を解説します。

応用生物科学部 生物環境科学課程 多様性保全学研究室
宮川 修一 教授

▶担当授業
種子まき（農場）
日本のコメと世界のコメ
世界各地の稲作



栽培体験で「稲作」を身近に感じてもらうとともに、
農業と工学の関係や、「米」の文化的な側面も伝えます。

田植え経験がなく、稲の形や開花時期などを知らない学生が増えていくことを背景に、柳戸農場で田植えや雑草駆除などの栽培体験を指導します。「米」を多角的に捉える視点のひとつとして、岐阜県情報技術研究所の研究者を招き、雑草を駆除する「アイガモロボット」の開発成果を聞くとともに、農業と工学の密接な関係も解説。また、有機農業の草取りがいかに重労働であるかを体験するために、一区画では農業を使わずに栽培します。江戸時代から「草がなくても草を取る」ことを美德とした日本人。稲作文化の中で几帳面な国民性が育まれたことを学びます。

応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
大場 伸也 教授

▶担当授業
授業の概要
田植え（農場）
水田の生態学
新しいイネをつくる
水田土壌の科学
（収穫体験は希望者のみ）





岐阜大学キャリアセンター 「先輩社会人アドバイス事業」

20代後半の先輩社会人が 「働くとは？」を学生に伝授！

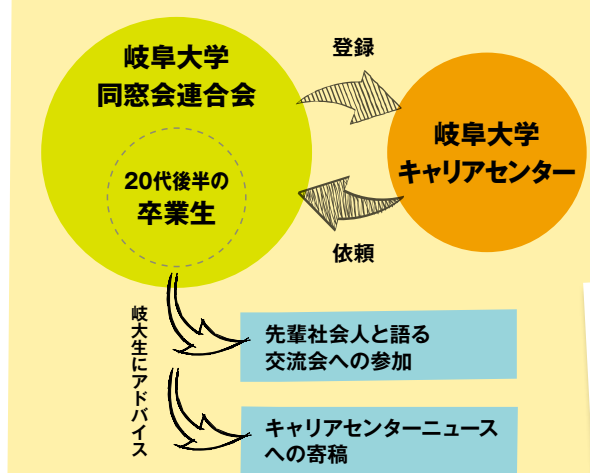
岐阜大学キャリアセンターでは岐阜大学同窓会連合会と連携し、社会人経験5～8年目の岐阜大学の卒業生に、働くことの楽しさや厳しさ、就職活動などに関して語ってもらう事業を進めています。学生たちはより近い世代の体験談を聞くことで、数年後の自分の姿を具体的に思い描くことができるいい機会となっています。

岐阜大学キャリアセンター
社会的・職業的に自立した、実社会で役立つ人材を輩出していくために、全学的な立場から学生の「キャリア形成」と「就職活動」を支援しています。多彩な企業人が教鞭を執る全学共通教育科目の「キャリア形成科目」の実施や、学生の自主的活動の支援、インターンシップ（就業体験）の仕組みづくり、就職ガイダンスセミナーの開催などを行っています。

「社会人とは何か」「就業とは何か」という自覚を持つことは、学生にとって大学で何を学び、どのように過ごすべきか、課題を深めるきっかけになります。平成24年度から岐阜大学キャリアセンターでは、岐阜大学同窓会連合会と連携して、在校生と世代の近い20代後半の卒業生に依頼し、実体験から学んだことを後輩に伝えてもらう「先輩社会人アドバイス事業」を進めています。今年度のこの事業への登録者は、岐阜・愛知・三重・静岡・長野・滋賀と、その近県在住の会社員・公務員・自営業の卒業生のうち、81名です。

平成24年11月には、第1回交流会「先輩社会人と語る―学生から社会人への飛躍―」を開催。トヨタカローラ愛豊（株）や東海旅客鉄道（株）、南山国際高等学校・中学校、岐阜県信用保証協会などに勤務する、各学部出身の

先輩社会人アドバイス事業



6人の先輩社会人が参加しました。「就職先をどのような観点で、何を基準として決めたか」、「仕事のやりがいや転社・転職の実態について」、「学生時代を振り返って、在校生へ一言」などに関して、質疑応答も含めて一人ひとりが自分の考えや体験をじっくりと語りました。就職難の時代において、学生生活で何

ができるのかを考える有意義な時間となりました。登録のあった卒業生には広報誌「キャリアセンターニュース」への寄稿も依頼しています。



第1回交流会に参加した先輩社会人



交流会の後に、岐大生が採用試験に来てくれました！

吉川 卓志 さん
たかし
クリオサイエンス株式会社臨床開発部 勤務
平成20年度修了(大学院応用生物科学研究科 応用生命科学専攻 食品栄養学研究分野)(旧農学部 生物資源利用学専攻)
スギホールディングス(株)に勤務後、治験業界に転職。治験とは、新しい医薬品や医療機器の実用化のために、必要となるデータを集める試験を行うこと。吉川さんは製薬会社側の立場から病院へ試験実施を依頼し、実施内容について点検する仕事に携わっている。

現在勤務している治験業界の良さを伝えたい、就職・転職活動について後輩にアドバイスしたい、という思いから交流会に参加しました。治験業界の存在は学生にあまり知られておらず、また、専門性が高いと敬遠されがち。しかし、実際には新卒に対して門戸が広く、教育環境も整った、働きがいのある職場です。交流会後には名刺を渡した学生が採用試験に来てくれたのがうれしかったですね。今回の取材も「将来有望な人材確保のために、ぜひアピールを」と社長に送り出されました。卒業生が岐阜大学を訪れることは、大学側にも会社側にもメリットがあると思います。

就職・転職活動において重要なことは、業界分析と自己分析です。入社後に「こんな会社のはずでは…」と感じることがあったら、それは研究不足。また、面接で最も大事なことは自分の武器を理解することです。岐大生が自信を持って、本人にとっていい会社に出会えるよう、応援しています。

吉川さん！ 就職活動のことを 教えて！

在学生3人が
先輩にインタビュー
しました！



在学中に取り組んでおくべきことは？

幅広いことに興味を持ってほしいですね。例えば専攻が薬学の場合、薬に関する法律はどうか、その法律を作る場所はどこなのかなど関心を広げてもらいたい。頭の片隅にでも関連する知識があると就職活動で差が出ますし、アルバイトの経験も自信になりますよ。



自分に自信がないので
面接が不安なんです！

「志望動機」は過去を前提に未来にどうつなげるか、「自己アピール」は将来を見越して過去をどう振り返るか、です。面接で主に問われるこの2つに答えるには、筋の通った自己分析が必要。短所を裏返すと長所になるのか、整合性を取りながら進めてみてください。



やっぱり就活は
人生において大きな壁ですか？

大きな壁だとは思いますが、でも仮にそこから降り落ちたとしても、隣にある小さな壁によじ登ってみるなど、挽回はいくらでもできます。今は転職をする人も多いですし、自分がきちんと調べれば、規模に関係なく働き甲斐のある会社ってけっこうあると思いますよ。



地域科学部2年
木村有里さん

工学部2年
森部修一さん

教育学部3年
大塚しおりさん

幅広く学べる学部に入ってよかった！と、自信になりました

吉川さんのように目標を持って、頑張りたいです！

幅広い興味が就職に役立つと分かり、漠然とした不安が解消できました

基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。

この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

基金による事業展開

- (1) 学生支援事業（深い専門知識、広い視野と総合的な判断力を備えた人材育成のための支援）
- 優秀な学生への奨学金制度
 - 学生の海外留学や交換留学生への支援
 - 外国人留学生への奨学金の充実 等
- (2) 教育研究活動支援事業（独創的・先進的な研究を行い、成果を絶えず社会に発信するための支援）
- 将来性が見込める優れた研究者に対する研究への支援
 - 教育研究機器の整備
 - 研究者の国際的な研究活動への支援
 - 海外の協定大学との教育研究交流への支援 等
- (3) 地域貢献活動支援事業（地域社会・国際社会からの信頼と期待に応えるための支援）
- 地域企業との連携や協力事業への支援
 - 多様な生涯学習機会への支援 等
- (4) キャンパス環境整備事業
- 講堂、体育館、武道館、グラウンドの整備 等

平成24年度支援事業等

岐阜大学基金の創設以来、多くの皆様からご寄附をいただき、ありがとうございます。貴重なご寄附を有効活用するため、次の支援事業を展開しました。

- (1) 学生支援事業
- 応援奨学生
 - 岐阜大学流域水環境リーダー育成拠点形成事業に関する私費外国人留学生学習奨学金
 - 国際会議を模擬する「模擬国連」参加への海外渡航支援
- (2) 特定事業（寄附者が指定する事業）
- 国際交流促進のための奨学寄附金
 - 岐阜大学事業奨励奨学寄附金
 - ドリームプロジェクト（コンティグ・アイ）
 - 外国人留学生支援事業

寄附者芳名録

個人

浅田 晃 様	上床 康夫 様	神谷 正広 様	佐藤 博司 様	多和田邦夫 様	服部美由起 様	古田 隆洋 様	安田 淑子 様
浅野 哲市 様	江崎 攝 様	唐沢 和衛 様	重野 嘉吉 様	月岡 米子 様	服部 善文 様	古田 仁 様	山口 登 様
東 修次 様	遠藤 至 様	川上 雅弘 様	志知 由加 様	辻 十一郎 様	馬場 容二 様	本田 俊一 様	山田 和子 様
安達 英雄 様	大賀 玲子 様	川島 康正 様	篠原真由美 様	都築 利元 様	浜口 充 様	牧 栄伸 様	山田 績 様
天岡 望 様	大勢 暢彦 様	河田 勝司 様	柴崎 章子 様	出口 吉明 様	早川 豊和 様	樹岡 智恵 様	山田 直光 様
天内 満雄 様	大野 喜朗 様	川村 哲也 様	清水 憲雄 様	出崎 秀人 様	林 勝之 様	松井みゆき 様	山田 舞子 様
安藤 幸子 様	大前 勝正 様	河村 尚人 様	清水 文男 様	出町 巽 様	林 清香 様	松下 捷彦 様	山田 正信 様
安藤 雅子 様	大前真由美 様	北折 尚之 様	下田 朋子 様	藤後 慶晴 様	林 正一 様	松本 康 様	山村富美子 様
伊木 健治 様	大矢 浩 様	北川かず子 様	杉浦金治郎 様	得地 豊治 様	林 秀喜 様	間宮 康喜 様	山本 輝子 様
池田 善彦 様	岡田 実 様	北嶋 敏和 様	杉下 総吉 様	戸部 貞子 様	林 穂波 様	三品 和子 様	山本 麻里 様
石田 勉 様	岡村 高司 様	久保田正行 様	杉本 尚之 様	富田 幹雄 様	林 雅昭 様	三田村 晃 様	湯口 唯男 様
石高 治夫 様	奥村 晃 様	熊谷 廣 様	杉本 紀子 様	豊田 竜平 様	林 泰男 様	三岡 孝幸 様	湯沢 勝 様
石原 康子 様	奥村 隆 様	熊田 克己 様	杉山 雅章 様	鳥居 敬 様	林 由是 様	三塚 邦昌 様	横井 昌彦 様
石原 之弘 様	奥村常三郎 様	組田 房子 様	鈴木 裕久 様	内 藤 信 様	林 良 様	皆森 良明 様	横田 勇司 様
五十川好子 様	小栗 敬彦 様	河野 和夫 様	関 紀子 様	長岡 康孝 様	林 良一 様	養島 裕和 様	吉田 益子 様
板津 敏彦 様	小栗知津子 様	小栗和彦 様	高崎 敏臣 様	中島 弘義 様	味元 宏道 様	吉安 亮一 様	米山 義信 様
市原 美里 様	小栗奈津子 様	後藤 幸子 様	高橋 忠明 様	永田 和夫 様	日置 信明 様	三宅 巖 様	若杉 聡 様
稲田 勝美 様	長田 和子 様	古波蔵信重 様	高橋 毅 様	那須 富子 様	東嶋 功 様	宮武 博明 様	見山 政克 様
井原 紀子 様	恩田 博宣 様	駒澤 修 様	高橋 睦 様	西井 正美 様	彦坂 行男 様	見山 政克 様	三好敬一郎 様
今峰 鍼子 様	嘉住 熊二 様	近藤 綾子 様	高宮 秀至 様	西島 正博 様	菱村紀代子 様	村上 潔子 様	村上 潔子 様
岩砂 和雄 様	片岡 淑郎 様	近藤 卓和 様	高柳 早苗 様	西村 康治 様	日比野光男 様	村瀬登志夫 様	村瀬登志夫 様
岩島 康敏 様	片上 照司 様	近藤 富雄 様	滝澤 勇 様	丹羽 憲司 様	平田 史子 様	村田 俊一 様	村田 俊一 様
岩田 哲夫 様	桂川 幾郎 様	酒井 広蔵 様	武島 正則 様	野口 昭虎 様	平田 公伸 様	村山 登代二 様	村山 登代二 様
上野 一夫 様	加藤 賢龍 様	榊原 幸宏 様	竹本 正弘 様	野澤 聡 様	平野加代子 様	村山 静司 様	村山 静司 様
白井 康臣 様	加藤 卓司 様	坂下 厚実 様	棚橋 映二 様	野原 春江 様	深尾 勝夫 様	森 正實 様	森 正實 様
内原 勇 様	加納 宣康 様	谷口 和視 様	谷口 和視 様	野村美代子 様	深谷 典子 様	森下 泰三 様	森下 泰三 様
宇野 久夫 様	加納 宏 様	桜井 信郎 様	玉井 広一 様	橋本 有司 様	深谷 真 様	森本 貴之 様	森本 貴之 様
漆畑 政治 様	釜谷 寿史 様	酒向 三冬 様	玉置 健三 様	蜂矢百合子 様	藤田 里美 様		

法人・団体等

医天神眼科医院 様	医療法人社団慈朋会澤田病院 様	シーエムシー技術開発(株) 様	ハートランス(株) 様
(株)市川会計 様	医療法人社団和宏会下條内科クリニック 様	シーシーアイ(株) 様	鶴ヶ池からみる岐阜大学の環境 様
(株)黒田製作所 様	大垣精工(株) 様	西濃印刷(株) 様	福寿工業(株) 様
(株)三進 様	河合石灰工業(株) 様	太平洋工業(株) 様	丸周建設(株) 様
(株)ジャパンブランツ 様	岐阜車体工業(株) 様	ツキオカフィルム製薬(株) 様	ミニストップ(株) 様
一般社団法人岐阜県医師会 様	岐阜大学ハイキング部 様	天龍コンボジット(株) 様	
イビデンエンジニアリング(株) 様	国際ソロプチミスト岐阜 様	中津川商工会議所 様	

岐阜大学 基金の 状況報告

お知らせ



前号
岐大のいぶき
No.24

岐大のいぶき No.24 アンケート報告！

前号「岐大のいぶき No.24（2012年11月発行）」に、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。アンケートの結果をお知らせします！

まず、皆様に興味を持って頂いた記事内容の紹介からです。今回は、特集1では「環境への貢献」をテーマに、本学の先生方が地元の企業等と協力して推進している「世界に誇る研究」について紹介、そして特集2では、本学キャンパスをフィールドの一つとして活躍している先生の「自然観察・縞々学」について紹介させていただきました。興味を持って頂いた方が、特集1は55.6%、特集2は40.3%と、とても高い割合でした。いただいたご意見をいくつか紹介いたします。

特集1：「大学で行われている研究が、社会に貢献していっていることが素晴らしいと思いました。これからも活躍されることを期待しています。」「各研究室

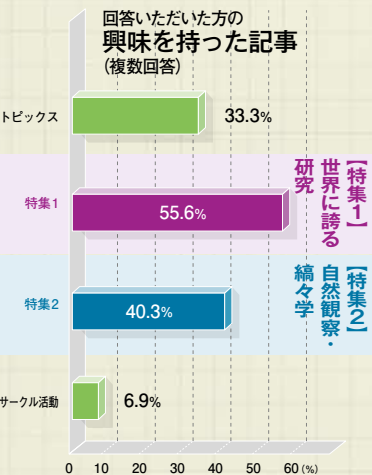
での企業と連携した研究活動を、今後も継続して紹介して頂けると参考になります。」ありがとうございます！「なかなか優れた研究をしているのに、目立たない大学なので、もったいない気がします。もう少し広報に力を入れてみてはどうでしょうか。」すみません…頑張ります。特集2：「岐大のいぶきは大変よい編集です。『撮影は一期一会（P16-17）』すばらしいです。」ありがとうございます。川上先生の自然観、ステキですね。

さて、No.21でリニューアルして以降、「デザイン」「読みやすさ」「情報量」「様子」について継続的に皆様からのご意見をいただき参りました。その結果、お寄せ頂くご意見は、下のような傾向でした。私たち岐阜大広報関係者は、特に「岐大の様子がよくわかる」と思って頂こうと、毎号工夫しながら編集しているのですが、なかなか「よくわかる」の割合が増えません（泣）。そこで今回は、皆様と岐阜大学のコミュニケーションの機会について意見をいただきました。いくつか紹介させていただきます。「駅

前の新しい施設を利用して、市民との交流を深める。」昨年10月に開所した、JR岐阜駅前のサテライトキャンパスでの活動ですね。「卒業生へのコンタクトを、まずは最優先していただきたいものです。皆さん（母校を愛して）頑張ってます！」卒業生の方々、よろしく願います！「地域に住んでいる学生たちがもっと公民館などを利用して、地域の人たちと関わっていく、リーダーになっていける機会ができるといいな！」大学のアウトリーチ活動をもっと活発に！というご意見ですね。

「岐大のいぶき」についても、たくさんご意見をいただきました。「岐大のいぶきの広報誌を見てよかったので、続けてもらいたい。」「広報誌は続けていただけたらと思います。」ありがとうございます。広報スタッフ一同、ますます頑張ります！！

「岐大のいぶき」は、読者の皆様とともに作っていく広報誌を目指しています。皆様からのご意見をお待ちしております。



大学オリジナルグッズを Present！



抽選で5名様にPresent!
岐大生協マスコットのカモリン入りメモ帳・シャープペンです。持っていると愛着がわくかも!?
なお、メモ帳とシャープペンの色は選べませんのでご了承ください。

希望者にPresent!
学生が1年間かけて作成した「岐阜大学紹介ビデオー学生生活編ー」DVDを希望者にお送りします。ご希望の方は、アンケートハガキ「お名前」欄にあるDVDに○を付けてください。

プレゼント応募締切：
▶▶▶ **平成25年7月31日(水)必着**
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

公開講座のご案内

岐阜大学では大学で行われる授業や研究の取り組みを広く知っていただくため公開講座を行っています。募集期間や定員を設けている講座がありますので、詳細は大学 Web サイトでご確認ください。

講座名	受講対象者	開催時期	講習料	実施部局
■親子天文教室（4回）	小・中学生とその保護者	4/20(土)(終了)、8/17(土)、 11/9(土)、2月未定 18:00～21:00	無料	☎ 教育学部 058-293-2351
■化石教室 ①「園児のための化石レプリカ作り教室」 ②「小学生のための化石教室」	①幼稚園・保育園児と その保護者 ②小学生とその保護者	①5/6月(終了)、②11/3(日) 13:30～15:00	無料	
■昆虫教室 「わくわく、びっくり! 昆虫探検」	小学生とその保護者	7/13(土) 9:00～12:00	無料	
■子ども工作教室「木のバズルづくり」	小学生 (中・高学年)	4/20(土)(終了) 10:00～16:00	無料	
■子ども色彩教室「カラフル・パラソル」	小学生	5/26(日)(終了) 13:00～16:00	無料	
■子ども造形教室「絵の具でアート」	小学生	6/30(日) 10:00～15:00	無料	
■【岐阜大学環境講座】 「自然環境の材料を使った造形教室」	小学生	11/10(日) 10:00～15:00	無料	
■子ども版画教室 「紙版画でカレンダー」	小学生	12/14(土) 10:00～15:00	無料	
■美術教育講座	中・高校生	7/21(日)、8/4(日) 10:00～16:00	無料	☎ 地域科学部 058-293-3003
■「若者たちのいま」を考える	市民一般、学生 (高校生を含む)	9/7～9/28 13:00～16:15	7,200円 (学生は 6,000円)	
■医療マネジメント講座	医療専門職及び 医療経営に携わる方	12月 未定	無料	☎ 医学部 058-230-6054
■【岐阜大学環境講座】 長良川・白山エコカフェ&エコツアー 2013	市民一般	4/1～3/31 13:00～17:00	無料	☎ 工学部 058-293-2361
■応用生物科学部 中学生のための体験科学講座	中学生	10月または11月の土日で 1日開催 13:00～17:00	無料	☎ 応用生物科学部 058-293-2832
■家庭菜園の基礎 － 理論と実際 －	市民一般	4/1～1/31 10:00～12:00	10,200円	
■食べられる生命 － 肉と卵の科学と実際 －	市民一般	4/1～1/31 10:00～12:00	7,200円	
■【岐阜大学環境講座】 「循環型社会の形成に向けた農業・農村の役割」	市民一般、学生	未定 13:00～17:30	無料	☎ 連合農学研究科 058-293-2984
■先端を行く連合創薬医療情報研究科	受験希望者、市民一般	7月上旬 午後	無料	☎ 連合創薬医療情報研究科 058-230-7602
■先端科学を知ろう！（仮）	市民一般、学生	10/1～11/30 13:00～17:00	無料	☎ 生命科学総合研究支援センター (学術国際部研究支援課) 058-293-2014
■生涯学習の今日的意義と課題（3） － 今、生涯学習に求められるもの －	生涯学習・社会教育関係 職員、社会教育主事施設・公民館主事等学習施設 の職員、ボランティア指導者、市民一般、学生等	11/10(日) 14:00～16:30	5,200円	☎ 総合情報メディアセンター (生涯学習システム開発研究部門) 058-293-2284

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹（いぶき）山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力（いぶき）を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきは Web からご覧いただけます！

<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=721>



■「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学総合企画部総務課広報係 〒501-1193 岐阜市柳戸Ⅰ番Ⅰ
TEL 058-293-2009 FAX 058-293-2021 Email kohositu@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学